

みんな仲良し「ほっこりボックス」！

平取町立二風谷小学校
教頭 石井 晃

二風谷小学校は全校児童16名の小さな学校ですが、児童全員元気一杯の学校です。今年度、児童会書記局が「優しさあふれる二風谷小学校にしたい」と積極的に活動をしていますので紹介したいと思います。

「ほっこりボックス」という素敵な取り組みを行っています。これは、してもらって嬉しかったことや誰かの頑張っていることやすごいと思ったことを紙に書き、ほっこりボックスに入れる取り組みです。(前期はハートボックスという名前でした) 入れてもらった紙は毎週書記局の子が朝の全校放送で紹介をしています。



今まで、書かれた内容を一部紹介すると、「ドッチボールで頑張っていていいと思った」「書記局がみんなのために楽しいゲームや遊びを考えてくれた」「レクるとき、進んでコーンを片付けてくれた」「ドッチボールでいっぱいパスをしてもらった」「お休みの人が多かったので5、6年生の靴箱掃除を一人でコツコツとしてくれました」等、たくさんの誉め言葉が書かれています。この取り組みには教職員も参加し、児童一人ひとりの良かったことを書いています。放送で名前を呼ばれて紹介された子は照れくさそうに嬉しい顔をしています。

また、全校の仲を更に良くしようと書記局や高学年が中心になってレクを行っています。先日も「ほめ言葉ドッチボール」というものを行いました。これは、児童会副会長の発案で、ボールを投げて当てる時には、相手をほめる言葉を言ってから投げないといけません。もし、ほめた人と違う人に当たったら、その人はセーフになります。ボールを取るときは、できるだけ「ありがとう」と言いながらキャッチをするというものです。始めは何と言ったら困っていましたが、慣れていくうちにたくさんのほめ言葉が飛び交うドッチボールゲームとなりました。



今年の7月に行った児童アンケートでは、学校へ行くのが楽しいと回答した児童が93.7%。自分の考えや行動に自信を持っている児童が93.3%。北海道や自分たちが住んでいる地域が好きな児童は100%となっています。児童会書記局を中心に優しさ溢れる二風谷小学校の児童全員がキラリと光っています。